

第4回青森市アリーナプロジェクト有識者会議 議事録

<p>開催日時・場所</p>	<p>平成30年10月25日(木) 15時～16時50分 青森市役所 本庁舎 2階 庁議室</p>
<p>出席者</p>	<p>【委員】小山内敬子委員、柿崎泰明委員、黒田剛委員、慶長大輔委員、 齊藤裕一郎委員、千葉康一委員、舟引敏明委員、三上巽委員 計8名出席 ※小松尚委員、奈良秀則委員、西秀記委員、八戸弘委員、は欠席</p> <p>【オブザーバー】 国土交通省東北地方整備局 建政部 都市調整官 佐々木 貴弘 氏 青森県 県土整備部 都市計画課長 岡前 憲秀 氏</p> <p>【ヒアリング招聘者】 浪岡ジュニアバドミントンクラブ 監督 奈良岡 浩 氏 株式会社昭和設計 池本 裕 氏</p> <p>【青森市】副市長 前多正博 経済部理事 百田満、経済部次長 横内信満、 地域スポーツ課長 木村久美子 ほか 都市整備部部長 大櫛寛之、都市整備部理事 長井道隆、 都市整備部次長 岡山幸司、都市政策課長 坂牛裕、 公園河川課長 高村功輝 ほか</p>
<p>次第</p>	<p>(1) 開会 (2) 案件 ○ヒアリング スポーツ関係者等の方からのヒアリングを実施 ○事業手法について 事務局から、資料に基づいて説明 ○アリーナの機能等について 事務局から、資料に基づいて説明 ○意見聴取 委員等からアリーナに求められる機能について意見聴取 (3) 閉会</p>

(案件の内容)

座長	まずはヒアリングですが、スポーツ関係者から、市民体育館をはじめとする市内の体育館の良い点や課題点、他都市の体育施設を利用して感じた良い点や課題点、またこれらを踏まえた上で、アリーナに求められる機能等について、御意見をいただきたいと思います。それでは、お願いいたします。
スポーツ関係者等	競技施設としては、色んなところに行きますが、土足で観客席に入れることが必要だと思っています。大会では、出入り口は一箇所でもいいのですが、ギャラリーからの昇り降りに関しては、5、6箇所位あるとスムーズだと感じます。空調等は、今はどこでも使いますし、バドミントンに関しても、風があっても競技しているので、さほど心配することは無いと思いますが、観客側から見てフロアとの高さがありすぎると見づらいということもありますし、選手は基本的に選手召集所にいるか、もしくは体育館によってはギャラリーにいますので、ギャラリーからの昇り降りもスムーズにいける方が良いのではないかと思います。あとウォーミングアップの場所も、バドミントンに限らず、他の競技にも必要だと思しますので、確保すると使いやすいのではないかなと思います。トイレについては、4箇所って多いのかもしれませんが、古い体育館だと2箇所のケースがあって、配置のバランスもあるのか、すごく混雑するケースもあるので、人の流れ、動線といった部分も考えるといいと思います。フロアについても、市民体育館であれば、ポールを穴に入れて競技しているので、色んな形をとるために移動式のポールで競技できる施設の方が良いのではないかと思います。大会や観客席数にもよりますが、各競技でリーグがありますし、多いに越したことはないのですが、多くするとどうしてもギャラリーと観客席の高さの問題が生じ、少し資料を見たのですが、下にも出るような感じになっていると使いやすいと思います。バドミントンは国体であれば面数もいらないのですが、全日本社会人とか、全日本実業団とか、小学生の全国大会は面数が必要になるので、大会によって規模は変わるものの、大人の大会を誘致する場合は、広さは今の市民体育館の広さでも大丈夫なのですが、小学生の全国大会などは、この面数では対応しきれないので、何箇所かで実施するということになると思います。小中高で大会の規模が全国大会と予選も違うので、それぞれで色んなケースが出てくると思いますので、小学生の大会、高校生のインターハイ、全国選抜というのは、規模的には厳しいと思います。また、ウォーミングアップ場が設けられない場合、サブ体育館もありますが、バドミントンでは、選手召集所になることもありますし、そういう意味ではあった方がいいと思います。
座長	サブアリーナと別にウォーミングアップスペースがあった方がいいですか。
スポーツ関係者等	一緒でも良いのですが、少しスペースを空けられるような方が良いと思います。観客席も、この前東京オリンピックが開催される体育館を見てきましたが、一つ一つ椅子になっており、ドリンクホルダーなどが付いて、「どれぐらいするんですか」と聞いたら、「そんなプラスチックで全部できているので、大した額ではないですよ」

	<p>と書いていましたけども、観客席をそのような形で確保すると、逆に中高生の大会では応援しにくくなる面もあるので、その辺は使い勝手だと思いますけど、こちらの方が収容人数はしっかり把握できます。小中高の大会ですと、試合をやっているコート付近に集まるので、逆にそれだと粗末に扱われるのではないかという感じも受けました。あと、ギャラリーも一周できると、大きい施設であれば、それがウォーミングアップ場所やランニングコースにもなって、色んな意味でのスペース確保になりますので、一周できるようなスペースがあればいいと思います。</p>
座長	<p>はい。続きまして今度は、アリーナの建築に詳しい方として、体育施設、アリーナの設計に携わった経験から、その事例紹介や設計するにあたっての留意点などについて御意見をいただきたいと思います。よろしくお願ひします。</p>
スポーツ関係者等	<p>画像を用意しておりますので、見ながら聞いていただきたいと思います。弊社は、色々な建物をやるのですが、スポーツ施設の代表的なものを挙げてきました。建設中ですがアクアティクスセンター、オリンピックで使われる水泳場の実設計をやっています。それから長井のヤンマードーム、これは大阪市ですけど、ワールドカップの会場にもなった施設です。それから、なみはやドームは大阪府の施設で、水泳場です。それから、青森では八戸のダイハツスタジアム、去年の春に設計を担当しております。私の経歴からいくつかご紹介しますと、20年位前になりますが、機能等は今の体育館となんら変わりはありません。まず、大阪の熊取町の総合体育館、ひまわりドームという愛称が付いておりますが、およそ10,000平米位、なみはや国体のバレーボールの会場として整備、建設してございます。大阪から1時間ほどの郊外の都市で人口は4万人ほどですが、これは上から見たところで、割と田舎な方なので丘陵地帯に運動公園があり、そこに建設しました。この丸いドーム状がメインアリーナになり、ここに元々溜め池があり、すぽっと埋めたというのが設計の意義になっています。丘陵地で全体に起伏があり、2階からアクセスするのが少しポイントに、一般の体育館と少し違うレイアウトになっています。上が2階の平面図で、大きな三角のところがメインの入り口で、2階が観客席というのが多いですが、ダイレクトに入れるようになっています。1階がメインアリーナとサブアリーナ、トレーニングセンターで、選手の動線は全て1階のレベルで、観客は2階からコンパクトに入ってコンパクトに出るというようにしています。横から見るとこのような形で、ちょうど花がひまわりでございまして、ひまわりの形をしているというようなことを書いておりましたが、実際はシャープな宇宙船のようなイメージで設計してスポーティーな感じでした。選手ロビー1階はこのような感じでした。それからエントランスは、少し硬めなデザインにわざととしています。円形のアリーナですが、スポーツゾーンは四角を収めており、観客席をその半月状のところに並べたという形になっています。アリーナの面も入れますと2,000人位は入ることができます。それから断面はこのような形、円形のアリーナは曲者で、音が真ん中に集まるというリスクがあります。これを避けるために、例えば天井の形状をレンズ型、下に凸型にすることによって、音が外</p>

に跳ね返るように工夫して、拡散するように考慮しています。間接光を入れており、公式試合は必ず暗幕で閉じますが、市民利用の場合は、それほど眩しくなければ、自然光を使うことは有効で、直接空は絶対見えないようになっております。自然光を入れて明るいので、これは竣工写真なので電気がついていますが、普段は全然つけないことなく昼間は消しておられます。これはスロープで、少し特殊で、20年前は、まだパラリンピックがそれほど盛況ではなく、障がい者のスポーツはあまり注目されていなかったのですが、ある施設を見に行きまして、大きなスロープがあったところから着想を得まして、車椅子のバスケットの試合など、何十台も車椅子で移動するという時に、エレベーターではとても間に合わないということから提案して受け入れていただき導入しております。トレーニング室はこんな感じですが、もう一つの案件ですが、熊本県の大津町の総合体育館です。3年ほど前にあった地震の震源地の近くになります。こちら、熊本から約1時間の場所で田園地帯になりますが、市の運動公園の中に、最後に体育館を整備するというので、この場所に体育館を建てるということで、プロポーザルで選んでいただきました。サッカーに力を入れており、非常にきれいな天然芝の競技場があり、その一角への配置で、デザインは黒い体育館になっていますが、サッカーのゴールがよく見えるようにと配慮しております。合宿等をJリーグから誘致するという目的を持って、主に市民利用ではありますが、体育館をトレーニング等に併用するというような課題がございました。平面は1階と2階で、ほとんど市民利用で、観客がたくさん入って試合を見るということあまり想定しないという前提で、とにかく使い勝手のいいコンパクトな設計をしています。このプールのところは、今はまだ施工されていない状況ですが、撤去は終わっています。アリーナは、このような形で、正面に阿蘇山が見えますので、イベントの時に見えるようにと提案した窓があります。下は色々競技しており、サッカーの試合の開会式であったり、震源地の近くでしたので、天井はもちろん大丈夫でしたが、設備のパーツが落下したので、少しでもリスクを減らしたいということから、去年、一昨年かな、天井を剥ぐ工事をして、現在は構造体むき出しという状況になっています。中が見えるので、内容的には使い勝手はあまり良くないです。サブエントランスということで、これも大きなボリュームの狭間なので、トップライトで自然光を入れてあります。サブアリーナはエントランスロビーも、熊本で雪はあまり降らないので、トップライトを入れており、断面はこのような構図です。これは駐車場側から見た一般的な体育館の機能構成図です。体育館をつくる時に、市民が利用するという使い勝手と、催事、イベントの時に観客を入れるという二面性があると思います。これをどのように管理区画していくかが体育館設計の1番の視点だと思います。これはアリーナの模式図のようなもので、少し分かりにくいですが、1階から4層が重なって見えているという表現です。競技するエリア、アリーナの中央の部分ですが、競技は色々ありますが、だいたいコート1面というのは、周辺も含めて設計するとそれほど大きな差はないと私は思っており、観客席に何人入れるかで建物規模が変わってくると思います。予算と要求にもよりますが、観客席であれば見やすい席のとり方、また不特定多数の方

が来られるという前提ですので、動線、避難の安全性、トイレの数、利便性等々、様々な問題を解決する必要があるというのが窺えるようになっていきます。建物の規模は、構造スパン、これは柱がなくて飛ばすと言いますが、どのくらい大きな空間が作れるかという話になり、大きければ当然コストはかかりますが、正比例ではないということです。これは少し小さいですが、30メートル級の屋根で、小学校の体育館ほどの大きさというイメージをしていただければと思います。大雑把な数字ですが、1000平米で約3億円位です。先ほど紹介した熊取ドーム、ひまわりドームは、60メートルのスパン。建物規模は約10,000平米で、固定席があり35億円ということで、スパンは倍ですが建設費は10倍です。なみはやドームは、国際級のプールと飛び込み台があり、スパンは120メートルです。60メートルの倍の構造で、10,000席プラスになりますが、建設費が約300億です。これもスパンは倍ですが建設費が10倍です。これはかなり大きいですが、ザハさんが設計、提案された国立競技場で、今は違う形になっています。全部屋根をかけるという形で、250メートルで、これもほぼ倍になっています。かなりの技術を見込んでおり、実現するためには3,000億かかるという見積もりが出たというのをお聞きしていると思います。ほぼ80,000人ということで、建設費が10倍で、この資料をつくって面白かったのですが、小学校の体育館クラスの30メートルからすると250メートルで8倍になっておりますが、建設費はなんと1,000倍の高額になる事例として挙げさせていただきます。導入コストの中で高額となる設備や最新技術についてご紹介いたします。設備は、まず照明で、照度は今のアリーナですと2,000ルクスが要求されます。事務所で700ルクス位ですので、かなり明るいものが要求されますが、テレビ中継等が原因であります。非常に専門性の高い高価な照明器具が要るのですが、昨今はLEDの技術が進んでおり、ここ数年で安価になってきていることもありますので、高くなる一方ではないという認識をしていただきたいと思います。それと演出の幅ということで、スポーツのショー化というトレンドがあり、別の演出用の照明が必要です。大型映像装置もありますが、何とかビジョンと呼ばれるもので、非常に高価なものです。ショー、演出にはなくてはならないもので、Bリーグ、Vリーグの試合開催では、必ずこれを装備したいという話が出てくると思います。3メートル、5メートル位のもので、画面だけではなくシステムをいれて1億円以上かかります。これも4、5年前にヒアリングした時には4、5億円で、やはり変動があり、今回のアリーナが実現する頃には、状況が変わっている可能性もあります。音響設備は、イベント対応にも非常に重要な要素となります。円形にすると中に音が集まる話をさせていただきましたが、音をコントロールするというのは、イベントをやる上で非常に重要です。スポーツをするという音響は、音を吸収してコントロールするだけではなくて、反響が臨場感など有益であるという場面もありますし、逆にコンサートでは、自分の思うような音をつくり出すということが重要視され、最近では全てスピーカーとコントローラーでバランスをとるといった仕組みになっており、もちろんコストはかかると思います。それから空調は、大きな空間なので、むやみに使用すると

	<p>非常にコストがかかります。先ほど気にせずに行っているとおっしゃいましたが、普通バドミントンは流れるので、公式試合ではご法度で、止めてしまこともあり、どういいう空調にするかという問題があります。座席の下から暖かい空気を出すなど、それからパネル状のもので、部分的に暖めたり冷やしたりするような輻射空調のシステムが考案されていて、必ず導入費が高くなるわけではありません。それから施設の中で、移動観覧席があり、壁面に収納されていて、引き出すことによって蛇腹式に階段状の席が出来ます。ここに上げている写真は、壁に固定されており、別シート型、背もたれがないタイプで移動可能です。ピンからキリまであり、背もたれがついて、ユニット稼動と書いてありますが、何十人分かを一つのユニットで移動させることができ、メーカーによって違いますが、キャタピラーであるとか、空気圧で浮かせて動かし、レイアウトを自由にできるので、色んなイベントに対応できます。これは海外の事例で、2階席も固定ではなくて移動観覧席にし、そこも体育室にして使うということもあります。おそらくアメリカかなんかの大学であったと思います。日本でも提案している方は聞いたことがありますが、実現したかどうかは不明です。観客席は、先ほどお話がございましたが、これもピンからキリまであり、右の方が、一番簡単なベンチシート、左にある背もたれがふかふかな方は一番高価で、2万円から10万円くらいまで振り幅があります。観客席は、何千人、1,000人、2,000人、3,000人と固定席つくる時は、シートの構造が1万円違うと1,000万円違うことになり、かなり影響があると認識いただければと思います。先ほど紹介しました移動観覧席は、固定型で大体1席あたり20万、動かせるようになると30万位。レイアウトの仕方は、火災予防条例で通路の幅や並ぶ席の数などにも制限があり、たくさん並べると、通路幅を広くするというような規定がございます。青森市のアリーナをつくる上でのコスト的な課題ということで、少し挙げさせていただきます。青森の地域性ということで積雪の問題です。これは荷重的に構造的な負担、屋根の上に積もることを見込まないといけないので、他の地域よりもコストが上がる可能性があります。それから積雪対策、天候、寒さに対して、待機場所、観客席も他の暖かい地域の体育館よりは広め取る必要があり、そうすると面積が増えコストも上がります。これはマエダアリーナの写真ですが、このように大きいコンコースみたいなものをとらえている事例は、割と少ないと感じています。それから、コスト削減案ということで挙げさせていただいており、第一には延床面積を削減するという事です。それから、シンプルで大量に素材を使うので、屋根の素材、内装の仕上材、観客席の仕様など、材料の単価を抑えることが出来れば、かなり抑えられることになります。設備では、利用頻度の低いものは、仮設での対応もできるかと思えます。例えば演出装置やビジョン等は持ち込みも出来ますし、年に1回しか使わないのであれば、これも一つの手法で、そこは議論になると思います。以上です。ありがとうございました。</p>
座長	<p>ありがとうございました。何か質問がありましたらお願いします。私からですが、体育館を利用するにあたり、使われ方や設備の面で、特定のスポーツをやるこ</p>

	とで、他のスポーツとバッティング、不具合が生じることは何かございますか。
スポーツ関係者等	通年で、バレーボール、バスケットはよくバッティングします。
座長	その時に施設が問題になるようなことがあれば、教えていただきたいです。
スポーツ関係者等	施設の的に問題になることは、特段無いのですが、どうしてもボールが飛んで来るケースがあるので、それ位ですかね。冬になると、テニス関係も入ってきます。
座長	空調は、特にバドミントンが一番ナーバスになるスポーツだと思いますが、少し詳しく教えていただけませんか。
スポーツ関係者等	空調は、以前はご法度でしたが、今は健康管理が第一ということで、小学生、中学生、高校生含めて、温度管理が必要になっています。エアコンが無い場合は仮設で入れており、施設によっては、吸う側と出す側で、場所によっても全然風が違うのですが、そういう状況でも全国大会を開催しています。日本は良い方で、海外ではシャトルが30センチメートル動くようなケースも多々あります。特に、インドネシア、マレーシアでは、そのようなケースで試合をしています。
スポーツ関係者等	必要悪ということですね。仕方がないからという。
スポーツ関係者等	それよりも温度管理ということだと思います。番狂わせが起きることもあるので、風はあるよりも無い方が良いというのは選手の意見だと思います。
座長	もう一点、先ほど大津の体育館で天井をとった事例、今の天井に関しての一般的な考え方はありますか。
スポーツ関係者等	一般的と言いますか、数年前に国交省と文科省で、大きなサイズの天井に関して、必ず耐震の設計をしなければならないという通達がありますので、技術も進んでいます。材料もボードとか重いものではなくて、例えば膜の構造などが一般に使われております。膜はかなり軽量で事故は少なくなります。
座長	大津のように、構造材がそのまま出ているという施工もあるのですか。
スポーツ関係者等	もちろんそれもあります。それが一番コストとしては安いと思います。
オブザーバー	最近、決勝などはスポットで行われていますが、あれが主流ですか。
スポーツ関係者等	そうです。国際大会の後半では、あのような感じが多くなっています。
オブザーバー	選手に光が入らないとかあるのですか。
スポーツ関係者等	選手はあまり感じないのですが、観客席が明るいと見えにくく、そこだけスポットライトだと見えやすいという観客席側の理由だと聞いています。
オブザーバー	それは仮設でも対応出来るのでしょうか。
スポーツ関係者等	当然コストはかかりますが、空調、電源など全て仮設にできます。ですから、イベント対応を考えるのであれば、機材を搬入するための搬入口をたくさんとるか、トラックが何台もとまるので、対応を想定するのが重要だと思います。
スポーツ関係者等	去年の事例ですけど、東京体育館でスポットライトを使用した時の費用が、1,000万円と聞いています。
スポーツ関係者等	設定、事前準備や撤収にも時間がかかります。

座長	<p>ありがとうございました。お二方には、引き続き会議に参加いただきますので、質問等がありましたら、後ほどお願いします。それでは、事務局から事業手法について説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料1をご覧ください。前回の会議でも報告しましたが、本プロジェクトの実施にあたりましては、収益施設の併設や、設計、建設、運営を一体で民間事業者を実施いただくことにより、民間事業者の持つノウハウを活用することを検討しています。実際に募集するのは、まだ先のことでございますが、早い段階で意見や提案を取り入れるために直接対話をするマーケットサウンディングを実施することといたしました。既に募集は始めておりまして、11月下旬には対話を実施したいと考えております。想定される民間事業者としては、本事業に興味のある方が見込まれますが、例えば、建設、運営に関心のある企業のほか、収益施設の整備や運営に関心のある企業などについて挙げているところであります。また、これらの一部に関心のある場合にも、参加可能となっておりますので、広く民間事業者の方から御意見を伺いたいと思っております。事業手法の検討状況についての報告は以上になります。</p>
座長	<p>ありがとうございました。マーケットサウンディングは、次の会議で結果が報告されるということになると思います。続きまして、アリーナの機能について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>アリーナの機能等につきましては、資料の2及び3でご説明させていただきます。まずは、それぞれの資料を簡単にご説明し、その後、詳細にご説明していきますのでよろしくお願いします。資料の2については、第3回会議でもご説明させていただきましたが、これまでも有識者会議における委員の皆様からのご意見と、競技関係者からのヒアリングにおいてのご意見、さらに、市民体育館を利用いただいている、各競技団体へのヒアリングにより、アリーナ整備に望むものとして施設や機能等について伺った意見を集約し、アリーナの機能や規模等を決めていく過程として、メインアリーナを初めとする必要な施設や必要な機能の絞込みの考え方を示した資料となっております。資料の3については、資料の2のうち、必要な面積や観客席数といったアリーナの規模に関わっていくものをご説明する資料でございます。資料に関しての説明は以上です。それでは、具体の説明に入らせていただきます。まずは資料2の1ページ目をご覧ください。1ページから2ページは、アリーナ機能の絞込みチェックシートでございます。第3回会議でもご説明させていただきましたが、機能等を絞り込むにあたり、必要な施設の絞込み、主要機能の絞込み、そして詳細機能の絞込み等により、機能や規模感を確定していくこととさせていただきます。必要な施設及び主要機能について、後ほど詳しく説明いたしますが、○△×で評価しており、主要機能の下線の意見が第3回会議において、新たにいただいたご意見でございます。なお、詳細機能や運営に関する意見については、今後整理させていただくこととさせていただきます。続きまして、3ページをご覧ください。3ページから6ページまでは、機能等を絞り込むにあたり、必要な施設について、各視点による評価をしてさせていただきます。</p>



まずは現有施設として、カクヒログループスタジアム（青森市民体育館）の施設ごとの面積等を掲載しております。次に、メインアリーナが、健康（市民のスポーツ機会の拡大）、交流（多世代・市民とアスリートが交流できるアリーナ）、防災（災害時にも対応できるアリーナ）といったアリーナのコンセプトに合致するかどうかという視点で評価をしてございます。次に、利用ニーズが高いかどうかという視点で、評価をしてございます。次に、整備しない場合の影響があるかどうかという視点で評価をしてございます。以上を踏まえて、施設ごとに総合評価をしてございます。それでは、施設ごとに説明させていただきます。メインアリーナでございますが、資料にございますとおり、やはりアリーナの核となる施設であり、現在の市民体育館の利用率等や整備しない場合の影響も踏まえ、それぞれの視点で必要なものとして、総合評価においても○としております。サブアリーナ・多目的ルーム・会議室等でございますが、こちらはコンセプトを○として評価してございますが、利用ニーズや整備しない場合の影響については、現在の市民体育館の利用率にも余裕があり、部屋数や面積についても検討が必要でありますことから、総合評価において△としております。トレーニングルーム等でございますが、コンセプトの防災については、防災上の役割は大きくないと考えられること、利用ニーズについては、現在の市民体育館の利用状況に余裕があること、整備しない場合の影響については、民間事業者が運営する施設があることも考慮する必要があることから△とし、安定した利用者数の確保や民間事業者の運営への配慮から、総合評価を△としております。キッズルーム等でございますが、コンセプトの防災については、防災上の役割は大きくないと考えられること、整備しない場合の影響については、既存施設との役割分担が必要なことから△としてございますが、利用ニーズについては、季節や天候に左右されずに利用できる環境を整備する検討が必要であり、また、平成30年第2回青森市議会定例会において、「子どもの遊び場づくりに関する請願」が採択されたことも踏まえ、総合評価を○としております。ロッカールーム・シャワールームでございますが、コンセプトにおいて、市民の健康増進や交流に直接つながるものではありませんが、防災上必要な施設として整理し、総合評価を○としております。エントランスでございますが、コンセプトの交流については、大会やイベント等において多くの交流が期待できるものの、通常時の活用については検討が必要であることから、総合評価を△としております。トイレでございますが、これは施設に当たり前に必要なものとして、イベント開催や男女別の利用ニーズも考慮した検討が必要であり、総合評価を○としております。駐車場でございますが、これも施設に当たり前に必要なものとして、イベント開催や災害時も想定しながら検討が必要であり、総合評価を○としております。続きまして、7ページをご覧ください。7ページから16ページまでは、機能等を絞り込むにあたり、主要機能について、利用者の増加に寄与するかどうか、一方でコストが大きすぎないかどうかという視点で絞り込み、総合評価をしてございます。メインアリーナでございますが、必要面積、観客席の席数に関すること、天井については、別に整理してございますので、後ほど資料の3を使用して、ご説明させていただきます。観客席の「観

客席と競技場が近く見やすい」、「観客席が競技の邪魔にならない」については、いずれもコスト増となる、あるいはなる可能性があるものの、利用者の増加が見込めるものとし、総合評価を○としております。床の、「耐久性の高い床材」については、導入コストは増となるものの維持管理コストが下がる可能性や利用者増が見込まれることも踏まえ、材質については検討するものの、総合評価を○としております。「弾力性のある床材、スプリング入り床材」については、導入した場合に利用できる競技が限られることも踏まえ、総合評価を×としております。空調の、「風の影響を受けない」については、風に影響されやすい競技の利用増が見込まれることから、総合評価を○としております。「下まで空調が届く」、「十分な冷暖房」については、競技する側、観戦する側の利用環境の向上につながり、利用者の増加が見込まれることから、総合評価を○としております。照明設備、壁・窓等については、詳細機能に関する意見ですので、今後整理することとしております。音響・映像設備の「大型ビジョンの設置」については、演出面で利用増が見込まれるものの、コスト増が見込まれることから、総合評価を△としております。「コンサートを開催できる音響」については、コスト増が見込まれるものの、多目的利用による利用増が見込まれることから、総合評価を○としております。ステージの「本部席、表彰式で使用できるステージ」については、固定のステージは床面積の増加につながりコスト増が見込まれることから、可動式ステージを導入することとし、総合評価を○としております。備品の「大型備品の保管場所」については、コスト増となるものの、競技団体の利用増が見込まれることから、総合評価を○としております。「防災倉庫の設置」は、避難場所として必要なものとして、総合評価を○としております。その他の「イベントを開催できる」については、コスト増となる可能性はあるものの、利用増が見込まれることから、総合評価を○としております。サブアリーナ等でございますが、競技に必要な面積については、別に整理してございますので、後ほど資料の3を使用して、ご説明させていただきます。「大会時にウォーミングアップできる施設」、「複数の競技が同時に利用できる」、「大会時の練習場は不要」については、コスト増となるものの、競技者の配慮による利用増が見込まれることから、総合評価を○としております。「スプリング入り床材」、「畳の常設」については、利用できる競技が限られ、利用者が減少する可能性があることから、総合評価を×としております。「サブアリーナにも暖房設備」については、快適な競技環境を提供することにより、利用者の増加が見込めることから、総合評価を○としております。「サブアリーナにも観覧席が必要」については、観客のある大会やイベントの開催が少ないと想定され、コスト増となることから、総合評価を△としております。「鏡や棒のあるスタジオ」については、床面積が増加しコストが増加するものの、利用者の増加につながると考えられることから、総合評価を△としております。「子どもも利用できる多目的ルーム」については、キッズルームの検討において配慮することとし、ここでの総合評価は×としております。「大会時の控室、会議室等が必要」については、大会運営上必要となることから設置することとするが、可能な限り兼用などの効率化を図ることで、総合評価を○としておりま

す。トレーニングルーム等でございますが、「冬場のトレーニング施設が必要」については、民間事業者が運営する施設にも配慮しながら検討することとし、総合評価を△としております。「ジョギングコースが必要」については、観客席周囲の通路と共用とするなどの工夫により、コストが抑えられ、利用者増も見込めることから、総合評価を○としております。キッズルーム等でございますが、「キッズスペースの充実」、「親子で色々な遊びができる機能」については、多様な世代の利用が可能となり、利用者の増加が見込まれることから、総合評価を○としております。ロッカールーム・シャワールームでございますが、快適な利用環境の整備、また、防災上も必要であることから設置することとし、総合評価を○としております。エントランスでございますが、詳細機能に関するご意見ですので今後整理することといたします。トイレでございますが、「トイレ（特に女子トイレ）の数が十分に必要」については、大会やイベントの運営、各競技の基準も踏まえ、必要なトイレの数を確保することとし、総合評価を○としております。「非常用のトイレ」については、指定避難所として必要な機能であると整理し、総合評価を○としております。駐車場でございますが、「駐車場の数が十分必要」については、利用者数や公共交通との分担を想定した上で、必要な駐車台数を確保することとし、総合評価を○としております。「大型バスが駐車できる」については、団体での利用が想定されることから、大型バスの駐車を考慮することとし、総合評価を○としております。次に資料3のアリーナの規模についての検討をご説明いたします。先ほどもご説明させていただきましたが、アリーナの主要機能については、これまでの有識者会議で委員の皆様からいただいた御意見を踏まえ、「利用者の増加に寄与するかどうか」や「コストが大きすぎないかどうか」という視点から絞込みを行ったところでございます。特に、アリーナの規模については、アリーナの整備にあたっては、カクヒログループスタジアム（青森市民体育館）の代替施設ということを念頭に整備を検討し、現在の市民体育館の機能・規模を一つの目安とすること。BリーグやVリーグを開催する場合の施設要件やコンサートなどのイベントなどを考慮することが想定されること。Bリーグは、「青森ワッツ」が青森市をホームタウンの取りまとめ役として登録済。Vリーグについては、試合誘致を行っていないこと。B1リーグの施設要件となる観客席5,000席以上（県営のマエダアリーナと同規模）の施設を整備することは、県と市の役割分担、二重投資の回避の観点から困難であると考え、を踏まえ、3案を作成したところでございます。A案については、アリーナの整備にあたっては、カクヒログループスタジアム（青森市民体育館）の代替施設ということを念頭に整備を検討することとしており、現在の市民体育館の機能規模が一つの目安になるものと考えてございます。現在のカクヒログループスタジアム（青森市民体育館）のメインアリーナ、サブアリーナ、多目的ルーム等と同程度の規模で試算してございます。B案については、A案は、BリーグやVリーグなどプロスポーツの試合を開催できる施設要件を満たしていないことから、事業の主旨・目的である「スポーツのみならず多様な催事ができる交流拠点を整備することで、市民の健康づくりとスポーツ振興、さらには経済効果を図る。」

	<p>という観点から、B案を提案するものでございます。また、Bリーグは、「青森ワッツ」が青森市をホームタウンの取りまとめ役として登録済であることを踏まえ、B2リーグの開催に対応するための施設要件となるコートエリア19m×32m以上、観客席3,000席以上を確保してございます。C案については、現在は、Vリーグ（バレーボール）について、試合誘致を行っていないが、翻案は、試合誘致に対応するための施設要件となる屋内施設フロア25m×50m以上、競技エリア19m×34m以上、観客席3,500席以上を確保してございます。また、コンサートなどのイベントを開催する際は、全方向型で、5,000席収容可能となっております。また、次のページ以降は、ご説明した3案の使用用途に応じた配置図面でございます。左からBリーグの試合開催時、コンサート（一方向型）開催時、コンサート（全方向型）開催時の順で、上が2階、下が1階の配置図となっております。私からの資料の説明は以上でございます。</p>
座長	<p>ありがとうございます。それでは、ヒアリングや事務局説明を踏まえまして、委員の皆様から意見をいただければと思います。特に今回は、事務局からアリーナの機能について細かい説明もありましたし、また規模についての具体的な説明もありましたので、これに関しての質問や意見についてお伺いしたいと思います。</p>
委員	<p>防災の拠点としていただきたいので、気になるところが、寒さとか暑さになります。雪国ですので、今日もマエダアリーナに午前中行ってきましたが、アリーナの中はいいですが廊下に出ると寒いので、建物自体が平均して暖かいような、そういう設備がいいと感じています。あと障がい者の方々のトイレは1階にありますとか、向こうにまとめてありますというのではなく、各階には必ず障がい者用トイレがあるという造りにしていただければ、選手も観客も空いていけば使えるので、障がい者の方が不便なく利用できると思います。ぜひ考慮して頂きたいと思っております。</p>
座長	<p>規模については何かご意見ございますか。</p>
委員	<p>規模は、もし予算的にできるのであれば、大きいに越したことはないと思っております。C案がいいかなと思います。</p>
座長	<p>はい、ありがとうございました。では次の委員お願いいたします。</p>
委員	<p>説明のありましたAからCまでの三つの案は、だいたいの予算に対する見積もりみたいなものは取っているのでしょうか、いないのでしょうか。</p>
座長	<p>確かに規模と予算はつきものですが、なにかございますか。</p>
事務局	<p>今回特に見積もり等を徴したものはございません。私どもでは、他県他市の同様の、近い規模の事例を参考とし、まず5つの施設、それに三沢、むつを加えた7つの施設で、どれくらいの工事費がかかっているかということで試算しています。試算に当たりましては、この中から1平方メートル当たりの建設費が、だいたい40万から50万、一番低いところだと40万1千円、一番高いところだと53万7千円という風なデータがございましたので、これを元に40万から50万と仮定しています。先ほどの資料3でご覧頂きました延べ床面積をもう一度ご覧ください。A</p>

	案につきましては約10,900平方メートル、B案につきましては約12,100平方メートル、C案につきましては約14,300平方メートルとなっております。これにそれぞれ40万から50万の単価をかけてみますと、A案が約44億から55億円、B案はそれから更に4億から6億高い水準、約48億円から61億円、C案はそれから更に9億から10億高い水準、約57億円から71億円となっておりますが、先ほどもお話をいただきましたように、中に入れる施設などでまた随分ここは変わってくるのかとは思いますが、一旦今申し上げたところを目安としていただいてもよろしいのではないかと考えております。
座長	ありがとうございます。では今の説明を踏まえてご意見を頂戴したいと思います。
委員	まず20億の寄附がありますが、それを引いて、新聞などで見たところ、80億ほどを考えているという話を読んだ記憶があるので、C案でも十分に余裕があるような気がしており、もし行けるのであれば是非C案の方向で、規模として非常に魅力ある施設になるのではないかという気がします。そういう意味で、C案に対して、様々な附属施設、照明とかオーロラビジョンなども付けて、予算に収まるような形で作る方向に持っていったら、素晴らしい施設が完成するという期待感というか、わくわくするような施設ができるのではないかという気がいたしました。以上です。
座長	新聞報道でありました予算が80億、そこはご見解ありますか。
事務局	特に80億というのを出したものはございません。ただ、これは上屋の施設だけの金額でございますので、このほかに、例えば周辺に駐車場が必要で用地を取得すると、その分はまた別にかかってくるということでございます。
座長	市が出された数字ではないということ。
事務局	おそらく、当初は三沢、むつの事業費が4、50億位だということと、周辺地域等を含めれば、その位は少なくともかかるのではないかという例示として出したものが80億という形になっていると思いますので、市として予算上80億円でやりたいということでは現時点ではありません。
座長	はい、わかりました。少しその辺を確認しておきたかったのです。
事務局	参考までに、三沢国際交流スポーツセンターは、9,460平米で46億円、むつ市新体育館は8,010平米で約43億円と伺っております。
座長	はい。市の考えを聞いたところ、80億という数字が一人歩きしているようで、市の意向ではないようです。続きましてお願いします。
委員	まず大きさというところで考えますと、先ほど言われていたように、C案という、予算は我々はあまり触れられないですが、大は小を兼ねるということを含めて、あらゆるものに対応できる、あらゆるプロスポーツ等にも対応できるキャパのものが一番いいのではないかということです。先ほどスライドにも出てきましたが、大津町のスポーツの森、私も何回も行ったことがあり、サッカーをメインとしてやっていますが、大津高校が近隣にあり、校長含め色んな人たちの尽力によって、サッカーの町にしたいということで動いて、今は人工芝等もありますが、年間何百というチームが来

	<p>て、旅館組合も盛り上がり、ビジネスホテルが寮として展開して、各学校に入れるようになっていくところもあるし、すごい人数を取り込むような形で、宿泊、飲食業も含めてお金が落ちているという実績があります。火付け役は、今は宇城市の教育長をやっておりますが、いずれ大津町の校長に戻って更に花を咲かせるだろうという噂のある人で、実際大津町が拡大しているのはこの手腕によるものだと思います。世界各地に目を向けると、色んなプロスポーツの中で、子供たちが親に手を引かれながらスポーツを観戦しに行くのを見ることがあると思います。仙台で言えば、子供たちが泉中央駅からベガルタ仙台のスタジアムまで足を運んでいる。その光景を見るたびに、やはり青森市にもこうしたものがもっと出てこないとだめだろうなど。もちろん高齢者に対する健康管理、増進の意味もありますが、次世代、子供たちに残していかなければいけない、夢のある建物でなければ全く意味のないことで、Vリーグの話も出ましたが、あらゆるプロスポーツを招致しながら、子供たちが足を運んで応援できる、また県内外から色んな人たちが青森を知るために、応援しがてら色んなものを知って帰っていくということを含めて、子供たちが足を運ぶようにならないと、何か熱狂できるものがなければ、夢というものはなかなか維持継続していきけることではないので、短命県返上ということで健康維持に目を向けがちですが、やはり次世代、この20年、30年、40年というところで、継続していかなければならない施設を考えれば、今の子供たちがメインになって利用勝手がいいもの、それから熱狂的に応援できたり、自分たちがそこを目指したり、そういった施設をつくっていかなければならないという観点から考えても、出来るだけ大きい規模のもの。ニーズや需要の多い競技スポーツ、人口の多いものをメインで考えながら、あとは併用できるものを上手くコントロールしながら、規模というものをきちんと、サブアリーナをどれくらい大ききで何ルーム用意したらいいのかとかいうところも絞り込んでいければと思います。コンセプトにも掲げられていましたように、交流という面は、子供たち、大人たち、地元の人たちの交流もありますけど、全国各地の人が集まるような交流を通して、初めて青森の良さを知ってもらえることにもつながっていくので、そういう観点で魅力のある施設を検討してもらえればと思います。</p>
座長	ありがとうございました。大津の話が出ましたけども、何かコメントがあれば。
スポーツ関係者等	実際に行かれた方、ご存知の方がいたのはびっくりです。ありがとうございます。
委員	熊取も。大学あそこですから。
スポーツ関係者等	そうですか。良し悪しの評価は色々あるとは思うのですが。
座長	大津はアリーナの面積は、どの位あるのですか。
スポーツ関係者等	バスケ2面タイプですね。
座長	観客席は。
スポーツ関係者等	観客席は、観客を呼んでくるような想定はしなくていいということでした。200席はとってありますけども。
座長	どちらかというとスポーツ利用ですか。

スポーツ関係者等	使う人が優先ということですね。
座長	それでも人が来るといことですか。
委員	青森市は県庁所在地なので。熊本市があるから。
スポーツ関係者等	シチュエーションが違いますね。
委員	青森市と考え方がちょっと。
座長	うまくいっているのはマネジメントですか。
委員	そうですね。
座長	はい、ありがとうございました。続きましてお願いします。
委員	<p>私は正直B案でもC案でもという立場でございますが、一つは前回の会合でも言いましたけど、B1などを考えた時にどうするということがあったと思います。ですから、今回はB2までで青い森アリーナとかぶらないタイプにしますというように。では、めでたくワッツがB1に昇格した時、もしくはB1を呼ぶ時にどうするのかということに対しては、何か答えがなければいけないと思います。青い森アリーナの規模は満たしているはずですが、内装は確か満たしていないという話もあったかと思えます。トイレとの問題という話もあったかと思えます。この間の会議で連携というところもお話させていただいたので、例えば市としてアリーナにはこういう機能を持たせるが、B1はどうするかと言われた時に、それは連携して、既存施設と役割分担をして、市民や県民に提供していくということがあって、役割の明確化ということ、多くの市民の方にわかるようにすることが必要だと思っております。連携というキーワードは、コンセプトの交流につながりますし、色んな既存施設や使う人たち、利用するであろう人たちと連携しながら良いものをつくり運営していきましょうというのが発端なはずですので、逆に言うと、役割分担をするのであれば、きちんと連携するということを打ち出していくことが、スポーツ、ヒアリングをやった意見に対してもある程度の答えになると思います。もう一点、私は子供がいるので、その立場から言えば、駐車場の問題で、合浦の体育館に隣接しているプールの夜間教室に通っているのですが、今シーズンからワッツが試合を開催してしまして、知らないで車で行ってしまい、全く停めることができなくて教室に行くのを止めました。駐車場をどれだけ持つかということは、実は施設の利用、多目的な利用、並行利用に大きな影響を与えるというのは間違いなく、合浦は駐車場が狭いことは誰もが知っていることですが、新しくつくる施設ではどれだけの駐車場にして公共交通とどう分担していくのか。家が筒井なので子供と合浦までバスで行くこともあるのですが、青高から浪打に抜ければ徒歩で30分ほどです。ただ幼稚園の子供を連れて行くわけにいかないのバスを利用すると、30分以上かかります。合浦の体育館までは筒井から45分ほど見ないとバスでは移動できない。今後つくる体育館でも同じようなことが想定されて、公共交通の利用をアナウンスするのは容易ですが、現実に実行するとなると多くの困難を伴うものと思えます。そういった面も含めて、駐車場のあり方、公共交通のあり方、駅をどうするかをきちんと考えなければ、私も公共交通を使</p>

	<p>いたいと思いますけど、現実には住んでいる場所によっては使えないので、そういうところも含めて考えてほしいと思います。それから防災の面で見れば、資料の4ページでございますが、キッズルームの防災時のコンセプト、役割があって、「防災上の役割は大きくない」と書いてありますが、前回の東日本の時、青森におりましたが、子供が2歳でして、妻が非常に色々気にしていました。例えば紙おむつ、子供たちの中でどうする、粉ミルクをどうするといった時に、子供の親が被災した地域で、避難所でどういうことになっていたかということ、2歳の子供を持った同じ立場として、妻が非常に気にしておりました。そういったことも含めて、例えばキッズルームが防災の時にどういう役割を果たすのか、子供を持った母親たちに対してどういうことがあるのかということも、ここ10年色々なところで被災している方がいらっしゃいますし、避難所が開設されておりますので、そういった知見、経験も幅広く考慮した上で、キッズルームが防災時にどういう役割を果たすかということも十二分に考えて、今後詳細なところに活かしていければいいのかなと思います。まさに現実には避難せざるを得なかった方々からの意見を聞くということは非常に重要なことで、これが青森の将来の市民のためにもなるのではないかなと思っています。以上です。</p>
座長	<p>はい、ありがとうございます。貴重なご意見だと思いますので参考にさせていただければと思います。引き続きお願いします。</p>
委員	<p>規模については、予算等を考えますと、B案がいいと思います。ただ、今お話にありましたキッズルームのことでございますけども、防災上ということも大変重要な割合を占めるのですけど、子供の肥満ということも考えた時にも、是非このキッズルームが多く利用できるような施設にしてもらいたい。以上です。</p>
座長	<p>よろしいですか。はい、それでは次の委員お願いします。</p>
委員	<p>大きさとしてはB案の方がいいと思います。やはり他のアリーナと競合しない。前に重複は無駄じゃないかと新聞かなにかで見たのですが、そう思います。また、先ほど意見のあった色々な利用の連携が必要で、連携によって色々なスポーツをできるような形で、施設よりもそういう形で持っていかなければいけないと思うのですけど、建てた後に利用する人が少ないと、役所としては維持管理費がすごくかかるわけです。とすれば、それぞれ利用する方が色々なことができるような、それぞれのことを考えていかなければいけないなと感じました。それと予算は、先ほど床材という話がでましたが、床の単価によって金額が増えると思います。その辺も工夫をして、床材でも金額的に違うものもあると思います。少しの単価が大きく跳ね返ってくると思いますので、考えていただきたいと思います。あとはアクセスの問題で、私も気にしているのは駐車です。大きいコンサートに、かなりの車が来てとまれないことになると色々問題になりますし、大きめにとって普段はここまで使えるとか、そういう工夫を考えた方がいいと考えております。以上です。</p>
座長	<p>わかりました。では次の委員お願いします。</p>
委員	<p>発言が重複すると思いますが、市議会議員選挙の真っ只中で、私は幸畑団地の住民</p>



	<p>ですが、費用のことである党は、「市長は市民の血税を60億円規模で考えている」と批判的なことを言っておりますけど、今日、事務局から親切な数字を教えていただき、ありがとうございます。色々市長も悩むことはあると思いますけど、色んな意見があり、それぞれ大事だと思いますが、表明するとすれば、規模は最低限B案で、そのほかのことも、許されるのであれば、よりいいものをとということで感じております。中身として、一貫してお願いしているのは、駐車場の話はもちろんです。幸畑からバスで高架線の上から操車場跡地を見ますが、完成するのは、新聞等では2025年の国体となっていますけど、交通アクセスのことを素人なりに考えた場合には、どこからどういう線を引いて道路を考えるか。最終的には、県との交渉で容易ではないと思いますが、誘客対策、また次を考えた場合には、冬のこともありますし、青い森鉄道の駅設置は是非実現してもらいたいと思います。加えて、子どもと親との関係を考えて、市内の身近な人が集まってくるところをみますと、単一の機能的な建物はあまり繁盛しないんですね。多少地権者等との協調をとられるのであれば、すぐそばにサンロードという良いゾーンもありますし、青い森鉄道は必須条件としても、新しい市の総合計画の検討もしていることも含めて、やはり、最低B案で、出来れば機能的に、多少お金がかかっても、今辛抱しても、後に別な要素が出てきた時に、建て増し工事は費用がかかってあまり良くないので、前に申し上げたとおり、一つの地域として、土地の線引き等含めて、中期計画等を考えて計画されることを望みます。その際に、今市でお願いしている新しい方式での提案も関係あると思いますけど、弘前のはるか夢球場、選挙の時の新聞では、建てる時は、確かに国とのパイプもあって、市の負担がかからないような手法をとったようですが、年に1回のプロ野球は大変いいことですが、その後の維持管理費がかなり、市民負担とすればそういうこともあったという話もありますので、ハードだけでなく維持管理費も負担が伴いますので、その辺も慎重に検討していただければと思います。以上です。</p>
座長	<p>ありがとうございました。それでは本日ご欠席の4名ですが、事務局が事前に丁寧に説明している様ですので、いただいた意見を披露していただけますでしょうか。</p>
事務局	<p>一人目の委員からは、事前に説明した中では、特に規模に関する意見として、どれがいいという提示はございませんでしたが、これまでもお話ししたとおり、「避難する際の合宿所のような機能、避難した際の環境が整っているものとして、体育館は、アリーナはつくってほしい」、「交通アクセスの部分に関しても、きちんと検討してください」という意見をいただいております。次の委員は、「C案であればコンサートの対応としても良い」という意見のほか、「的を絞った施設であって欲しい」、「音の反響を考慮して欲しい」、「空調も競技ごとの配慮が必要である」などの意見をいただいております。次の委員でございますが、「バスケットボールの全国大会が開催できる規模、コート4面でなければならない」、「全国大会を開催できる規模とすることで、大会誘致につながり、これによって誘客の促進や交流人口の増加につながる」という意見のほか、「大型ビジョンも必要で、今プロスポーツはエンターテインメント化して</p>

	<p>おり、それへの対応の面でも必要」という意見をいただいております。最後の委員でありますけど、「規模については、サッカーや学校の運動会が出来る広さが良い、C案よりも競技フロアが大きい方が良い」という意見のほか、「青森市には、マエダアリーナや盛運輸アリーナ等があり、施設毎の役割分担を考えた方が良い」、「空調については、維持管理費がかかると聞いており、地熱等を利用すれば、経費削減になるのではないか」ということで、他施設の状況を参考に、維持管理のコストはかからないようにして欲しい」という意見をいただいております。以上でございます。</p>
座長	<p>はい。今、欠席の委員の話も説明いただきました。サッカーが出来るというのは、どの位の規模のことをおっしゃっているのですか。</p>
事務局	<p>普通に人工芝を引いて、サッカーが出来る広さがあれば良いということでした。</p>
座長	<p>4面バスケットをとれるのと、どちらが大きいですか。</p>
スポーツ関係者等	<p>サッカーは、正式コートが105メートルあるものですから、とんでもない。アリーナ、普通にある体育館ではない。</p>
座長	<p>事務局提示の案よりも大きな規模の御意見をいただきましたけど、市としては、何かお考えがあれば、お聞かせください。</p>
事務局	<p>先ほど資料でも説明させていただいておりますが、B1リーグの観客席5,000席とする場合、Bリーグを実施している他都市の体育館では、バスケットボールコート3面程度の規模となっております。先ほどの委員からの話は後ほど確認させていただきますが、このような規模の施設にした場合、C案よりもさらに大きいということで、事業費規模では、およそ80億円規模が見込まれるのではないかと考えております。加えまして、県営でマエダアリーナと同規模の施設ということになりますので、この規模は既に市内に一つございます。5,000席必要な時は、県営施設を活用していけるのではないかとということで、県と市の役割分担、また同じものが市内に二つできるということは二重投資であるというようなこともあり、そういった観点から、これ以上の大きな施設については難しいのではないかと考えております。</p>
座長	<p>はい。C案が出来ても最大だというご説明ととってよろしいですか。</p>
事務局	<p>はい。</p>
座長	<p>ありがとうございます。それではオブザーバーとして参加いただいているお二方からも御意見をいただきたいと思っております。お願いします。</p>
オブザーバー	<p>メインアリーナの大きさについては、基本的に市、市民の皆さんに関する話なのかなということで、オブザーバーとして話すことはありませんが、事務的なことを言わせてもらえれば、A案、B案、C案とも可動席がありますが、自動、手動でコストが変わってくるので、利用見込み等も踏まえて考えていければと思います。また、資料2の10ページで、体育室1、2、3があつて、既存の市民体育館の内容だと思えますが、柔道、剣道は将来的にこの施設でやるのかというところが少し気になったのと、13ページで、小さい話ですけど、ロッカールームがホームで63.1平米で、アウエーが30.7平米で、大きさが違うのが、少しかっこ悪いのかなと思いました。</p>

	あと16ページ、駐車場の話は、青森市は雪の問題もありますので、広い方が良いのは確かですけど、除雪のことも考えながら適正規模を考えていくのかなというところでございます。私からは以上です。
座長	はい。続けてお願いします。
オブザーバー	規模の話では、本日出席の方はBで、本日欠席の方はC以上でというご意見があったように思いますが、マエダアリーナを管理運営している立場として、競合するのはやはり苦しいなというところもありまして、そこは棲み分けしていただければ、ご理解いただきたいと思えます。やはりサイズに伴って、駐車場などが必要になってくるということになりますと、市有地だけでなく県有地まで入ってくるのかというところもあると思えますし、しっかりやっていかななくてはいけないと思えます。その辺の今後の展開も注視していかなくてはと思います。以上になります。
座長	はい。意見を言い忘れたとか、もっと言いたいとかあれば意見をいただきたいと思えます、ヒアリングの方もありますか。どうですか。
スポーツ関係者等	空調の話で、最近見たのですが、暖房も冷房もパネルでやっているところがあって、すごく良いのだろうと思って行ってみたら、夏に結露が起きて、費用もかかるということでした。あと、今年大会で行ったところでは、メインフロアと観客席とでエアコンのタイプを変えているのはいいなと思って見てきました。
スポーツ関係者等	私は、あまり意見を言える立場ではないですが、失敗例ではないですが、熊取の体育館は、バレーボールの国体会場ということで設計し、場所柄イベントにはさほど使わないので、トイレは仮設ですが、そのような使い方は普通に行われていると認識いただいていいと思えます。それから、これは失敗ではないですが、元々バレーボールでつくったので、バレーボールの団体から注目されて、ママさんバレーの使用が多かったのですが、割と良い施設だと評判になり、レベルが上がって、社会人、プロに近いような方に使われています。元々のアリーナの大きさは、規定プラスアルファでつくっておりまして、レベルが上がるとボールを追いかける距離が増えるので、そこまで見込むことが決していいとは思わないですが、ある程度余裕をもって設計するのも良いと思えます。
座長	そのほかいかがでしょうか。
委員	連携の話ですが、例えば八戸市のアリーナはもっと大きいので、大きい施設が県内にあるということを前提に、ワッツはこっち、大きなイベントは向こうで、といった大きな連携、管理をして欲しいです。それから輻射は、私の自宅、民間住宅でもパネル、輻射、人だけ温度を下げるような技術など入ってきて、九州が進んでいるなど聞きますので、広く物事を捉えて色んなところから知見を集めていただきたいと思えます。それもマーケットサウンディングを活用していただきたいと思えます。
座長	ありがとうございました。ほかいかがでしょうか。だいたい意見が出尽くしたと思えます。私からも一言申し上げれば、これから、規模も含めて、スペックも含めて、コストも踏まえて、一つ一つ選択していく作業が続くわけです。そういう点から考え

ると、かなり技術的な観点から資料を説明し、個々に意見を聞いていく青森市のやり方は高く評価していると思います。今日はアリーナの規模がメインでしたけど、B案、お金が許せばBよりC、やはりCがないとまずいのではないかという意見が、BとCで半ばしているという感じだと思います。これからはマーケットサウンディングもあります。どうやってマネジメントをしていくかが維持管理費にも関わってくると思いますし、その結果を踏まえて総合的な判断を出来るのは市ですので、我々も含めて情報を様々いただきながら、総合的な判断をしていただければと思います。次はマーケットサウンディングの結果を受けてということですので、また色々な話をお聞かせいただけるのではないかと思います。それでは、事務局にお返しします。